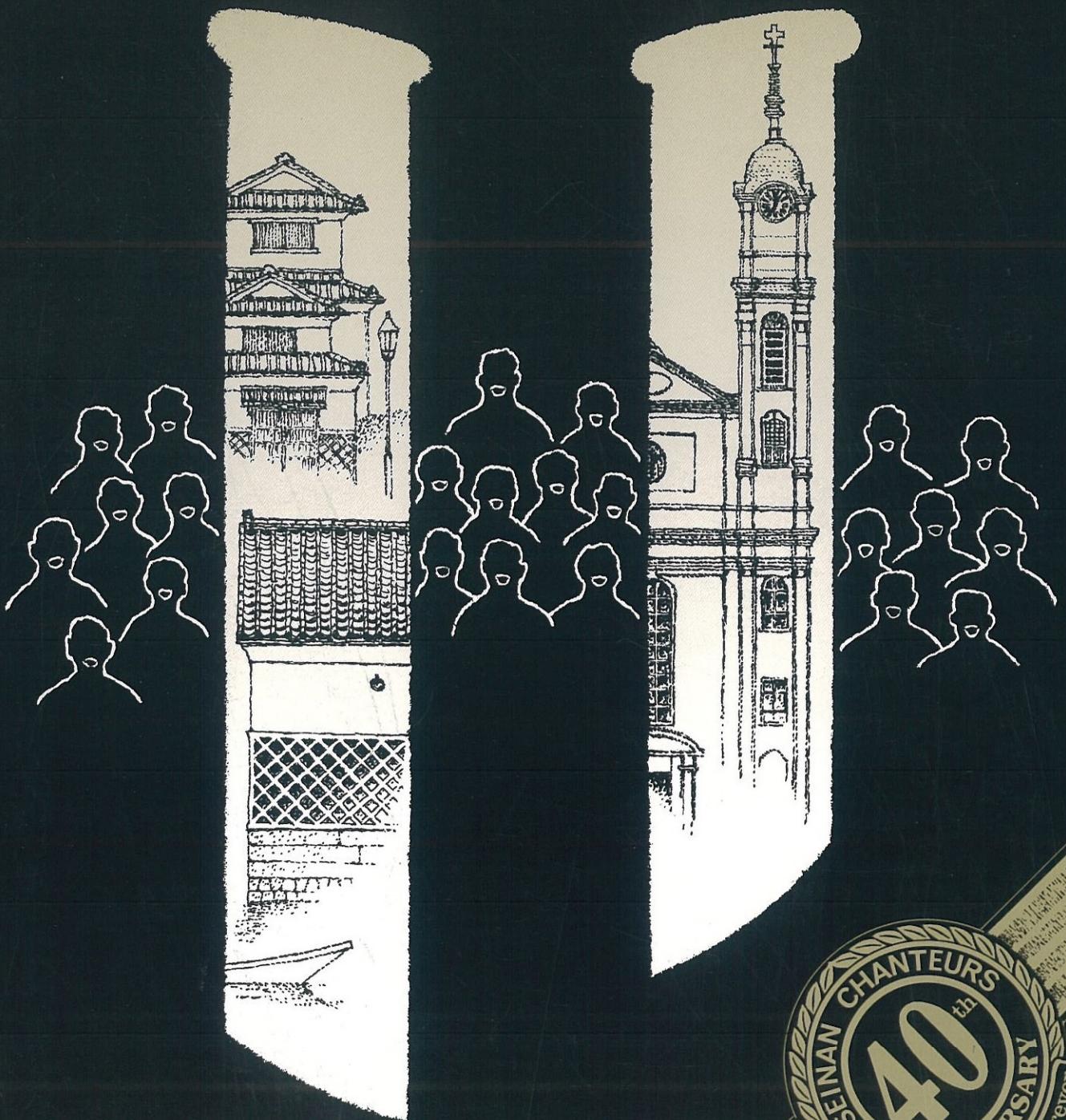


平成6年度福岡市民芸術祭参加

SEINAN CHANTEURS

40th ANNIVERSARY CONCERT
1994



ごあいさつ

西南シャントゥール 創立40周年記念演奏会

（賛助出演：西南学院グリークラブ）

1994年11月11日（金）

福岡サンパレス

主催／西南シャントゥール
後援／福岡市民芸術祭実行委員会
西南学院大学・西南学院大学同窓会



'93.11.13・'93西南シャントゥール定期演奏会（メルパルクホール福岡）



西南シャントゥール会長
徳永麟之助

今夕は西南シャントゥール記念演奏会にご来場頂き有難うございました。おかげさまで盛大に40周年を迎えることとなりました。西南シャントゥールは1954(昭和29)年、指揮者・内海敬三氏の発案により西南学院グリークラブのOBに呼びかけて創立されました。意気盛んな若者たちはすぐさま合唱コンクールに参加し優秀な成績を収め、1957(昭和32)年には、最初の独立演奏会を開きその存在を披露しました。しかしその後数年間、静かな時期もございましたが、1968(昭和43)年、福岡市民会館小ホールにて小さな「クリスマスコンサート」を行ってからは、この演奏会を契機により再び継続的な演奏活動が復活し、メンバーも固定し(30~40名)、1974(昭和49)年には創立20周年記念演奏会を行い、更に1984(昭和59)年に、30周年記念演奏会を念願の福岡銀行本店大ホールにて行う事が出来ました。そしてそれから早や10年、今夕を迎えたわけでございます。しかしこの間も幾度か存続の危機もございましたが、同窓、同じ釜のメシを食った仲間の強みと言うのでしょうか、無事苦節を乗り越えて今日まで継続してこられました。丁度この間は日本経済の高度成長期とも相重なり、転勤の為や練習時間が取れぬ為やむなく幾人ものメンバーが去っていきました。しかし近年再び戻ってくる方々もあって、現在は50名を越える合唱団にまで成長し、充実した練習が出来るようになりました。誠に嬉しく喜ばしい限りです。

この創立40周年にあたり、男声合唱曲作曲の名手、多田武彦氏に記念曲の作曲をお願い致しました。氏は早速、北原白秋の詩集「思ひ出」の中から六篇を選ばれて素晴らしい組曲を作ってくださいました。今夕はこの組曲「思ひ出」の歴史的〈初演〉が出来る事を、一同大変嬉しく、又誇りに感じております。

そして客演指揮者として、戦後西南学院グリークラブの復興を果たして頂いた石丸寛氏をお迎えしました。お忙しい中こころよくお引き受けいただきましたことを心から感謝致します。氏の指揮にて最後に現役のグリークラブと「黒人靈歌」を合同演奏いたしますが、この最終ステージが西南シャントゥールの50周年に向けての新たな出発のステージとなることと確信致しております。

最後になりましたが、この演奏会のために多くの方々のご尽力を戴きました。心より御礼と感謝申し上げます。そして今後とも、変わぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

メッセージ

西南シャントゥール創立40周年に寄せて



西南学院大学学長
田中輝雄

この度、西南シャントゥールは創立40周年を迎えられ、その記念としてこの特別演奏会が盛大に開催される運びとなりましたことは、誠におめでたいことで心からお祝い申し上げます。

西南シャントゥールは、今年75周年を迎えた西南学院グリークラブのOBによって、1954(昭和29)年に組織されました。何しろ母体は伝統があり、コンクール等において優秀な成績を残してきた西南学院グリークラブです。そのOBによる合唱は当然見事なもので、創立以来好評を博していました。しかしながら、「社会人」としての数々の制約のため、この40年の間には「何度か灯が消えかかった」こと也有ったようです。その灯が消えなかつたのはやはり「一握りの仲間の情熱であった」とはマネージャー佐藤氏の言です。幸いここ数年は団員も増え練習内容も充実してきているとのこと、まことに嬉しく思うものであります。

今回の記念演奏会の成功をお祈りいたしますと共に、40周年という節目の年を契機に、西南シャントゥールが今後ますます良き伝統を継ぎ、今迄にもまさる大きな活動をされ、市民のかたがたを大いに楽しませて下さることを祈って私の祝辞といたします。



西南学院大学同窓会会长
中牟田栄蔵

「西南シャントゥール40周年記念演奏会」を開催されるに当り、先ずは心からお祝い申し上げます。当合唱団が1954年に結成されて以来、今日まで40年に亘り卓越したレベルを保持され歌い続けておられますことは誠に素晴らしい偉業であり深く感服いたすところであります。ひと頃はメンバーが揃わざ解説を考えるなど大変なご苦労があつたことも伺っておりますが、よくこの苦節を乗り越えられ今日の素晴らしい合唱団を築かれたことは、皆さんの天分と共にこよなく歌を愛し、ひたすら歌うことへの情熱を持ち続けられた熱い思いの賜物と確信いたします。そして今や、毎年独立演奏会を催される貴重な社会人男声合唱団としてその存在は全国的に認められております。最近では定期演奏会の他コンサートへの招請、他団体からの出演依頼など多くの公演を消化され交流を深めておられます。私も同窓の一員として大変喜ばしく大きな誇りを感じる次第でございます。

皆様の創意で作られた記念演奏会のための作品「思ひ出」には大きな期待を寄せております。本日の歌声と共に西南シャントゥールの素晴らしい合唱がいつまでも人々に感動を与え続けられますよう、そして皆さん的情熱が長く次代に受け継がれ益々発展されますことを心から祈念いたします。

「歌ごころ」に火をつけたのは



西南シャントゥール常任指揮者
内海敬三

私が西南学院グリークラブで歌っていた1950年頃は、指揮者が石丸寛さん、ピアノ伴奏が福永陽一郎さんという、今から見れば超豪華なものでした。当時、関西学院グリークラブとのコンサートで、関学のあの独特な完璧とも思えるハーモニーに強烈なインパクトを受けました。さらに又米陸軍のデポー（黒人）男声合唱団が来日、その緩急自在、ダイナミックな演奏に「男の歌」の原点をみる思いでした。

その後私は先輩の誘いで、石丸さんが結成されていた福岡合唱協会に入団したのですが、ここで石丸さんは団員にことある毎に合唱やオーケストラに対する思いを熱心に語られました。その度に私達の音楽への思いが熱くなっていますことを今でもよく覚えています。

1952年、私は西南グリーの指揮をすることになり、在京の石丸さんを客演指揮者に迎えました。今では画家としても有名な石丸さんは、演奏会のポスターやプログラムのデザインまで描いて下さるなど、文字通り手とり足とりの指導でした。かくして西南グリーの戦後第一回の「独立」演奏会は電気ホール満員の盛況で、大感激しました。このような青春時代の様々な感動が、今日まで私を男声合唱に駆り立ててきたのです。

何故君達はそれまでして男声合唱という、たかが3オクターブ足らずの音域で変化の乏しい同声4部、しかもア・カペラ（無伴奏）の合唱にこだわるのかと言われます。それには「女性の甲高い声より、男性の声の方が心地よい」とか、「平均率では味わえないハーモニーの暖かさがいい」とか答えて、「山がそこにあるから」と言って、それに命をかける登山家のようなもので、所詮、井の中の蛙、多様な音楽の世界という大海を知らないのだ、と反論されるのが落ちです。しかし、大海を知らなくても、私達は狭い井戸の心地よさもさることながら、そこから仰ぎ見る果てしなく高い空に惹かれるのです。

この数年間、今までの同窓会的な馴れ合いに対する批判と同時に「音楽団体としてもっと充実した演奏を」、「我々独自の歌を」との様々な声があがってきました。

今夕、男声合唱の作曲家として夙に有名な多田武彦氏が余すところなく描きだされた、あの白秋の異国情緒、艶やかな「思ひ出」への哀惜の念を、私達の情感に重ね合わせ、念願の「自分たちの歌」として歌います。さらなる飛躍の為に。

シャントワールよ おめでとう!



西南シャントワールが40周年を迎えると聞いてわが耳を疑った。私が指揮者として東京でデビューしたのが1952年だから42年目である。僅か2年後には西南学院グリークラブのOB合唱団であるシャントワールが創立されていたとは…。つまり西南という学校は、戦前の専門学校時代から非常に長いグリークラブの伝統を持っている、ということが理解できたわけだ。そういった尊敬の念をこめて、この記念演奏会の指揮を御引き受した。東京から練習に参加するには回数などに限界があり、どこまで音楽的な成果が得られるか、いささか心細いものがあるが心からのお祝いをこめて指揮をしたい。

ヨーロッパやアメリカでは、プロ、アマを問わず圧倒的に男声合唱団が多い。西南シャントワールが最高の合唱団を目指してますます発展していくことを祈っている。

客演指揮者
石丸 寛

石丸 寛 (いしまる ひろし)

1922(大正11)年、中国・青島(チントオ)生まれ。1944(昭和19)年、文化院大学芸術科卒業。

文化学院時代より山田一雄氏に師事し、管弦楽法、指揮法を学ぶ。戦後、九州交響楽団を創設し初代常任指揮者となる。1954(昭和29)年、東京交響楽団を指揮し、中央楽壇にデビュー。ブラームスの連続演奏会で話題となる。以後N響、東フィル、読響、日フィル、新日フィルなど全国各オーケストラで活発な指揮活動をおこなう。この間いくつかの専属の説明を断り青少年のための音楽観賞と地方文化育成に精力的に力を注ぐ。一貫してクラシック愛好者を広げることに情熱を燃やし、自らの企画・構成・演奏でコンサート・テレビ・ラジオなどで活躍している。戦後依頼を受けて、戦時中に中断していた西南学院グリークラブの復活を果たし、カレッジソングの「Ah Seinan!」を作曲。又グリークラブのために数多くの男声合唱曲の編曲を行う。そのほとんどの曲が今も愛唱歌として現役、OBに歌い継がれている。主な著作に「それゆけオーケストラ」、「棒ふりラブソディ」、作曲作品に交響詩「舞扇」、「交響管弦楽のエスキース」などがある。

組曲「思ひ出」について

北原白秋は詩による組曲を、私は今まで、九つ作曲している。

- 1954年(昭和29) 柳河風俗詩
- 1957年(昭和32) 雪と花火
- 1957年(昭和32) 月夜孟宗の図
- 1964年(昭和39) 白き花鳥図
- 1969年(昭和44) 三崎のうた
- 1982年(昭和57) 水墨集
- 1991年(平成3) 東京景物詩
- 1992年(平成4) 思ひ出 ('94初演予定)
- 1993年(平成5) 月に寄せる歌('95初演予定)

白秋の詩の、余りにも日本の絵画的な部分に魅了されたらしい。

1992年、西南シャントワールから新曲の委嘱があった。「出来ることなら、北原白秋の詩による組曲が希望」ということであった。

前期年表のとおり、前年1991年に、私は久しぶりに、白秋の詩による組曲「東京景物詩」を書いた。還暦を経て、北原白秋の詩のすばらしさを、より

一層噛み締めていたせいか「東京景物詩」は好評だった。

私は迷わず、改めて北原白秋詩集を読み耽った。今まで何度も、合唱組曲に相応しい詩を選んできただけたが、「なぜ私はこの詩を見逃していたのか」と思ったほど、またまた北原白秋の極致に震えるような詩群に出合った。この中から六篇を選び、男声合唱組曲「思ひ出」を完成した。

最初は標題を「柳河風俗詩・第二」にしようかと思ったが、六つの詩の追想性の強さから、詩集の標題に合わせることにした。

今宵は、北原白秋の郷里柳川に近い西南シャントワールの皆さんによって、この組曲が流麗に描き尽くされるだろう。

詩の解釈や背景等について、西南シャントワールの佐藤宗一氏から、貴重なご助言をいただいたことに、御礼を申し上げると共に、演奏会のご成功を、心からお祈りする。

多田武彦

多田武彦 (ただ たけひこ) 1930(昭和5)年大阪生まれ。京都大学法学部卒業。

中学時代より祖父や父の職業(興行会社役員)の影響で映画監督を志し、内外の映画、歌舞伎、演劇等に興味をもつ、3年終了時頃より和声楽や楽式論など作曲に必要な理論の勉強を独学で開始。

旧制大阪高校時に先輩の田中信昭(現東京混声合唱団常任指揮者)に誘われコーラス部に入部。同時に関西学院や同志社のグリークラブの名演奏を聴く機会を通じて無伴奏男声合唱に心酔し、このことが後年、専ら無伴奏男声合唱曲を作曲する動機となる。京都大学在学中の2年間、京大男声合唱団の指揮者を勤め、男声合唱の機能を取得。京大卒業後は家庭の事情で映画監督の夢は断たれて銀行に就職。就職時、作曲をやめようと思ったが、作曲家清水修氏から無伴奏合唱曲の作曲を勧められて、以来六十以上の合唱組曲(曲目にして約400曲)を作曲して今日に至る。その折、清水氏からは詩の厳選と詩の徹底した分析の必要な助言を受け、詩の持つ音楽を重視することが多田作品の一貫したテーマとなる。そして又、好きな作曲家(チャイコフスキイ・ムソルグスキイ・ドビッシー・ラベル・プッチーニ・山田耕筰・中田喜直・团伊久磨)や「日本民謡・邦楽」などから受けた影響が多田作品の特色として言われる所謂「タダタケ節」を生んだと言われる。

PROGRAM《一部》

I. 宗教曲<CANTATE DOMINO>

指揮／内海敬三

- Hospodi Pomilui (主よ、あわれみ給え)(ギリシャ正教聖歌)
- Miserere (あわれみ給え)作曲／G. Allegri
- Cantate Domino (主を讃め歌えよ)作曲／H. L. Hasler
- Requiem Aeternam* (永遠の安らぎを)作曲／P. Cornelius
- O Sacrum Convivium (おお、聖なる宴)作曲／L. G. Viadana

(*この曲を今は亡きOBの御靈に捧げます。)

II. シューベルト男声合唱曲集

指揮／石丸 寛

- Du bist die Ruh' (君はわが憩い)作詩／F. Rückert
- Der Geistertanz (亡靈の踊り)作詩／F. Matthisson
- Die Nacht (夜)作詩／F. Krummacher
- Dessen Fahne Donnerstürme wallte作詩／F. Schiller
(その人の旗は嵐にはためき)
- Grab und Mond (墓と月)作詩／J. G. Seidl

<休憩15分>

PROGRAM《二部》

III. 《創立40周年記念作曲委嘱作品》

北原白秋・詩集「思ひ出」より
多田武彦／男声合唱組曲『思ひ出』 —初演—

指揮／内海敬三

- 水 路
- 梨
- 立 秋
- あ ひ び き
- 散 歩
- み な し 児

IV. 黒人靈歌《合同演奏》

編曲・指揮／石丸 寛

[賛助出演／西南学院グリークラブ]

- When the Saints Go Marchin' in (聖者の行進)
- Steal Away to Jesus (逃れて行こうイエスのもとに)
- Swing Low, Sweet Chariot (静かに揺らせ、素敵な戦車よ)
- The Battle O'Jerico (ジェリコの戦い)
- Go Down, Moses (ゆけ、モーゼよ)

*練習指導／馬頭経明

I. 宗教曲

I. Hospodi Pomilui (ゴスボジ・ポミルイ)

Hospodi pomilui

主よ、あわれみ給え

ギリシャ正教の聖歌。カトリックの聖歌の中で、西のグレゴリア聖歌と対照される、東のビザンツ聖歌の一つ。単旋律の多いギリシャ正教が、ロシア正教に伝わり、簡潔で分厚いハーモニーがつけられている。

II. Miserere

Miserere mei, Deus,
secundum magnam misericordiam tuam.
Amplius lava me ab iniuitate mea,
et a peccato meo munda me:
Tibi soli peccavi,
et malum coram te feci:
Ut justiceris in sermonibus tuis,
et vincas, cum judicaris.
Ecce enim veritatem dilexisti:
Incerta et occulta sapientiae
tuae manifestasti mihi.

あわれみ給え

神よ、私をあわれみたまえ、
あなたの慈愛によって。
悪しき心を全て洗い去り
私の罪より清めたまえ。
あなたに向って、私が罪を犯し、
あなたの前で悪を行ふ。
だからこそ、あなたが話される時、
それは正義となり、裁きの時は、清らかになる。
見よ、神が秘めた眞実を認め、
そして、いつの間にか私に
知恵を示されている事を。

Gregorio Allegri (1582-1652)

イタリアの作曲家。九歳から、各地の聖堂で少年聖歌隊員となり、また、作曲を学ぶ。三十代終わり頃から、生涯を、ヴァチカンのシスティナ礼拝堂の歌手として務め、かたわら、聖歌隊のために多くの作品を残した。
「ミゼレレ」は、1638年の作で、原曲は九声部で書かれている。毎年、「聖週間」に必ず歌われた。門外不出の曲とされたが、1770年、ヴァチカンを訪れた十四歳のモーツアルトは、一度聴いただけで、後に、完璧な譜に書き起こしたという逸話がある。

III. Cantate Domino

Cantate Domino canticum novum:
Cantate Domino omnis terra,
et benedicite nomini ejus:
Annuntiate de die in diem
Salutare ejus.
Annuntiate inter gentes
gloriam ejus, in omnibus populis
mirabilia ejus.

主を讃め歌えよ

新しき歌で、神をほめ歌え
地上の全てに、神を歌い
その名を賛美せよ
日々に神の救いを知らしめよ
異教徒に神の栄光を伝えよ
全ての人々に
神の奇跡を述べ伝えよ

Hans Leo von Hasler (1564-1612)

ドイツのオルガン奏者、作曲家。少年時代、父イサーク・ハスラーに音楽を学び、後、当時音楽の先進国イタリアへ留学。帰国後、南ドイツのアウグスブルクとニュルンベングを中心に活躍した。ドイツ風とイタリア風が溶けあった作風で、多くの合唱曲や宗教曲を作曲した。

IV. Requiem Aeternam

Requiem aeternam
dona eis Domine
et lux perpetua
luceat eis

永遠の安らぎを

主よ、永遠の安らぎを
彼らに与えたまえ
また、絶えざる光を
彼らの上に照らしたまえ

Pater Cornelius (1824-1874)

ドイツのマインツ生まれ。作曲家であり詩人。両親が俳優だったので、当初、彼も舞台に立ったが、後に作曲の道に進んだ。リストやワーグナーと親交があり晩年は、バイエルン王立音楽学校で教鞭をとった。

作品は声楽曲が多く、特に自作の詩に曲をつけた歌曲に優れたものがある。

V. O Sacrum Convivium

O Sacrum convivium,
in quo Christus Sumitur:
Recolitur memoria passionis ejus.
Mens impletur gratia,
et futurae gloriae,
nobis pignus datur.
Alleluia

おお、聖なる宴

おお、キリストが受けた
聖なる宴よ
主の受難の出来事が思い起こされて
心は喜びに満ち
また、来るべき栄光に充たされる。
私たちに、その証しは与えられる。
アレルヤ。

Lodovico Grossi Viadana (1560?-1627)

イタリアの作曲家。ボローニャで音楽を学び、後、フランチェスコ修道会に入る。マントヴァ大聖堂の楽長をはじめに、イタリア各地の教会楽長を務めた。
作品は、きわめて美しく表現力豊かな作風で知られている。O Sacrum Conviviumにも、その一端がうかがえる。

II. シューベルト男声合唱曲集

I. Du Bist Die Ruh'

Du bist die Ruh', der Friede mild,
die sehnsucht du, und was sie stillt.
Ich weihe dir voll Lust und Schmerz
zur Wohnung hier mein Aug und Herz.
Kehrein bei mir, und schliesse du
still hinter dir die Pforten zu.
Treib andern Schmerz aus dieser Brust!
Voll sei dies Herz von deiner Lust.
Dies Augenzelt,
von deinem Glanz allein erhellt,
O füll es ganz. O füll es ganz!

君はわが憩い (訳詩: 西野 茂雄)

君はわが憩い、甘き平和
憧れにして、また、それを鎮めるもの。
喜びと悩みとの全てを込めて、
わが目と心とを君の住み家に捧ぐ。
わがもとを訪れ、君のうしろの扉を
静かに閉ざしたまえ。
この胸の、いらざる悩みを追い払いて
この心に満たしたまえ、君の喜びをのみ。
わが瞳はひとり
君の光によりて輝く。
おお、その光満たしたまえ、残りくまなく。

II. Der Geistertanz

Die bretterne Kammer der Toten erbebt,
wenn zwölfmal den Hammer die Mitternacht hebt.
Rasch tanzen um Gräber und morsches Gebein
wir luftigen Schweber den sausenden Reihn.
Was winseln die Hunde beim schlafenden Herrn?
Sie wittern die Runde der Geister von fern.
Die Raben entflattern der wüsten Abtei
und fliehn an den Gattern
des Kirchhofs vorbei.
Wir gaukeln, wir scherzen hinab und empor,
gleich irrenden Kerzen im dunstigen Moor.
O Herz, dessen Zauber zur Marter uns ward,
du ruhest nun in tauber Verdampfung erstarrt,
tief bargst du im düstern Gemach unser Weh;
wir Glücklichen flüstern dir fröhlich:
Ade! Ade!

亡靈の踊り (訳詩: 野入 逸彦)

真夜中に槌が十二回打つと
死者達を囲う板壁が震える。
空中を漂う我々は
墓や朽ちた体の回りでザワザワと速い輪舞を踊る。
なぜ犬は、寝ている主人の側でクンクン鳴くのか。
彼らは遠くの亡靈の一団を嗅ぎ付けたのだ。
からすが荒涼とした修道院から
飛び立って、墓地の柵のそばを
通って逃げていく。
我々は跳ね、上や下へふざけ飛ぶ
まるで、霧深い湿原で迷っているロウソクのように。
おお 心よ、お前の魔法は我々にとって責
め苦となった。
お前は何も聞こえぬうつとうしさの中で固
くなっている。
お前は暗い部屋深くわれわれの苦しみを隠した。
我々幸運な者は楽しげにお前に
ささやく『ではね、さようなら』と。

■福岡大学教授・大阪市立大学名誉教授の野入逸彦氏に訳詩で、又（独）A F S
留学生、フレディ・ヒアツツェル氏にドイツ語の発音でお世話をになりました。

III. Die Nacht

Wie schön bist du,
freundliche Stille, himmlische Ruh'!
Sehet, wie die klaren Sterne
wandeln in des Himmels Auen
und auf uns herniederschauen,
schweigend aus der blauen Ferne.
Wie schön bist du,
freundliche Stille, himmlische Ruh'!
Schweigend naht des Lenzes Milde
sich der Erde weichem Schoss,
kränzt den Silberquell mit Moos
und mit Blumen die Gefilde.

夜 (訳詩: 藤森 数彦)

何とお前は美しいのだろう。
心地よい静けさ、神々しい安らぎよ。
見よ、実に澄みきった星たちが
天の美しい牧場を過ぎて行くのを、
そして、青い彼方から黙って
私たちを見下ろしているのを。
何とお前は美しいのだろう。
心地よい静けさ、神々しい安らぎよ。
穏やかな春は静かに近づき
大地の柔らかな芽生えは、
銀の泉を苔の花輪で、
広野を花々で飾るのだ。

IV. Dessen Fahne Donnerstürme Walte

Dessen Fahne Donnerstürme walte,
dessen ohren Mordgebrüll umhalle,
Berge bebten unter dessen Donnergang,
schläft hier linde bei des Baches Rieseln,
der wie Silber spielt über Kieseln;
ihm verhallet wilder Speere Klang.

その人の旗は嵐にはためき (訳詩: 野入 逸彦)

その人の旗は嵐にはためき、
その耳に殺りくの叫びが響いた。
かの雷鳴に山は震えた。
小石の上をたわむれ流れる
銀色の小川のそばでその人は安らかに眠っている。
彼には荒々しい槍の響きもいつしか消えて行くのだ。

V. Grab und Mond

Silberblauer Mondenschein fällt herab,
senkt so manchen Strahl hinein in das Grab.
Freund des Schlummers, lieber Mond,
schweige nicht,
ob im Grabe Dunkel wohnt oder Licht.
Alles stumm?
Nun, stilles Grab, rede du,
zogst so manchen Strahel hinab in die Ruh',
birgst gar manchen Mondenblick,
silberblau, gib nur einen Strahl zurück!
Komm' und schau'!

墓と月 (訳詩: 藤森 数彦)

青白く輝く月の光がさして、
沢山の光の筋を墓の中へと沈めている。
まどろみの友、愛しい月よ、
押し黙らないでおくれ。
墓に、闇が住もうとも、光が住もうとも。
黙っているのか、全く?
さあ、静かな墓よ、語るのだ。
お前は沢山の光の筋をその休息の場へ引き入れてしまった。
お前は、沢山月の眼差しを隠している
青白い、ただ一筋の光でも返してくれ。
さあ、来ておくれ、そして見ておくれ。

III. 男声合唱組曲『思ひ出』

西南シャントウール創立40周年の記念イベントの一つとして、初めて作曲の委嘱をした。作曲者は、現在わが国で、特に男声合唱曲を手掛けでは屈指の逸材、多田武彦氏である。氏は、私たちの願いを快く受けて下さった。詩も、丁度、氏が構想を持たれていて、福岡の地にもふさわしい白秋の詩集『思ひ出』から選んでいただいた。

作品は、あの『多田節(ぶし)』あふれる叙情味豊かな秀作となった。私たちが、その持ち味をどこまで表現出来るのか。本邦初演に当たって、大いなる感動と誇りをもつて歌つてみたい。

I 水路
ほうほうつと螢が飛ぶ……
しとやかな柳河の水路を、
定紋つけた古い提灯が、ぼんやりと、
その舟の芝居もどりの家族を眠らす。
ほうほうつと螢が飛ぶ……
あるかない月の夜に鳴く蟲のこゑ、
向ひあつた白壁の薄あかりに、
何かしら燐のやうなおそれがむせぶ。
ほうほうつと螢が飛ぶ……
草のにはびのする低い土橋を、
いくつか棹をかがめて通りすぎ、
ひそひそと話してゐる町の方へ。
ほうほうつと螢が飛ぶ……
とある家のひたひたと光る汲水場に、
ほんのり立つた女の素肌、
何を見てるのか、ふけた夜のこころに。

II 梨
ひと日なり、夏の朝涼
濁酒賣る家の爺と
その爺の車に乗りて、
市場へと。——途にねむりぬ。

山の街、——珍物見の

II 梨

III 立秋

柳河のたつたひとつのか屋に

秋が來た。

古い懷月樓の三階へ

きりきりと繰り上ぐる水の硝子杯、

薄茶に、雪に、しらたま、

紅い雪洞も消えさうに。

柳河のたつたひとつのか屋に

薔薇が生え、

住む人もないがらんどうの三階から

きりきりと繰り下ぐる水の硝子杯、

お代りに、ラムネにサイホン、

こほろぎも欄干に。

柳河のたつたひとつのか屋は

しょんぱりと、

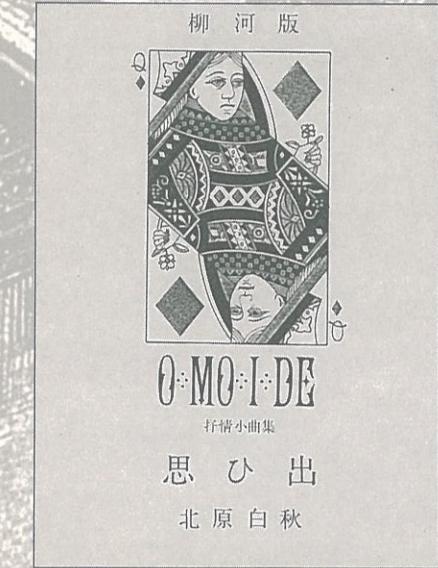
月の出の橋の擬宝珠に手を凭せ、

きりきりと音のかなし薄あかり、

けふもなほ水のながれに身を映す。

「水、水、水、水……」

註 ノスカイ 遊女方言。



白秋装丁による詩集「思ひ出」

IV あひびき

きつねのろうそく見つけた、
蘇鉄のかげの黒土に、
黄いなかろうそく見つけた、
昼も昼なかおどおどと、
男がへしたそのあとで、
お池のふちの黒土に、
きつねのろうそく見つけた。
註 毒青の一種、色赤く黄し。

過ぎし日のおもひでに
植物園を歩行けば、
霜白く、薄黄水仙の芽も青く、
鳴く鳥すらもほのかなれや、仏欄西の赤靴……

骨牌切るここに
クロウバのうへをゆけば、
朝はやく、あるかなきかの香も痒く、
鳴く蟲すらもほのかなれや、仏欄西の赤靴……

かの着白き年増を
恐れてそつと歩めば、
日は光り、いまだ茴香の露も苦く、
鳴く虫ころすらもほのかなれや、仏欄西の赤靴……

あかい夕日のてる坂で
やるせないぞへ、らっぱぶし。
笛が泣くのか、あやつりが、なにかわかねど、ひとすぢに
糸に吊られて、音につれて、

手足顛はせのぼりゆく紙の人形のひとをどり。
手足顛はせのぼりゆく戯け人形のひとをどり。
あかい夕日のてる坂で
やるせないぞへ、らっぱぶし。

なにかわかねど、ひとすぢに
見れど輪廻が泣いしやくる。
たよるすべなき孤兎のけふ日の寒さ、身のつらさ、
思ふ人には見棄てられ、商人の手にや彈かれて。

手足顛はせのぼりゆく紙の人形のひとをどり。
手足顛はせのぼりゆく戯け人形のひとをどり。
あかい夕日のてる坂で
やるせないぞへ、らっぱぶし……

V 散歩

あかい夕日のてる坂で
われと泣くよならづぶし……

ひとりあやつる商人のほそい指さき、舌のさき、
糸に吊られて、譜につれて、

手足顛はせのぼりゆく紙の人形のひとをどり。

VI みなし児

あかい夕日のてる坂で
われと泣くよならづぶし……

ひとりあやつる商人のほそい指さき、舌のさき、
糸に吊られて、譜につれて、

手足顛はせのぼりゆく紙の人形のひとをどり。

IV. 黒人靈歌

黒人靈歌の中でも、良く知られている5曲だが、第一曲目の『聖者の行進』は、古くからジャズのスタンダード・ナンバーとして特に有名である。そのジャズのリズムにのせて、石丸寛氏による鮮やかな編曲が出来上がった。西南学院グリークラブ諸君も参加しての、スイング感あふれる黒人靈歌を楽しんでいただきたい。

I. When The Saints Go Marchin'in

Oh, when the Saints go marchin'in
Oh I want to be in that number.
When the Saints go marchin'in

聖者の行進

おお、聖者たちが天国へ行進する時、
私もその中の一人になりたいものだ。
聖者たちが天国へ行進する時に。

II. Steal Away To Jesus

Steal away to Jesus.
Steal away home.
I ain't got long to stay here.
My Lord, He calls me by the thunder.
The trumpet sounds within my soul,
I ain't got long to stay here.
Green trees a'bending,
Po' sinner stand atrembling.
The trumpet sounds within my soul,
I ain't got long to stay here.

逃れて行こうイエスのもとへ

逃れて行こうイエスのもとへ、
逃れて行こう故郷へ。
ここに長くはいられない。
主は、雷によって私をお呼びになる。
私の心に合図のラッパが鳴り響く。
ここに長くは、いられない。
緑の木々は、地に伏し
罪人は、打ち震え、
私の心に合図のラッパが鳴り響く。
ここに長くは、いられない。

III. Swing Low, Sweet Chariot

Swing low, sweet chariot,
comin' for to carry me home.
I look'd over Jordan
an' what did I see?
A band of angels comin'
after me.
Comin' for to carry me home.

静かに揺らせ、素敵な戦車よ

静かに揺らせ、素敵な戦車よ
私を故郷に運んでおくれ。
ヨルダン川を見渡した所で
私は何を見たと思う?
天使の一団が、私の後から
やって来るのだ、
私を故郷(天国)へ運んでおくれ。

IV. The Battle O' Jerico

Joshua fit the battle o' Jerico.
An' the walls come tumblin' down.
You may talk about yo' King of Gideon,
You may talk about yo' Man of Saul.
There's none like good ol' Joshua,
at the battle o' Jerico.
Up to the walls of Jerico,
he marched with spear in hand.
"Go blow dem ram-horns."
Joshua cried,
"Kaze the battle am in my hand."
Den the lam' ram sheep horns begin to blow.
the trumpets begin for to sound.
Ol' Joshua commanded the chillun to shout.
An' the walls come tumblin' down. dat mornin'.
Joshua fit the battle o' Jerico.
An' the walls come tumblin' down.

ジェリコの戦い

ジョシュアはジェリコで戦った。
そして城壁がくずれ落ちた。
ギデオン王がどうの、
サウルがどうのと言っても、
ジェリコで戦ったジョシュアの様に
立派な人は、他にはいない。
ジェリコの城壁に向かって、
槍を片手に進んで行った。
『羊の角笛を吹き鳴らせ』
ジョシュアは叫んだ。
『勝利は、わが手中にあり。』
牡羊の角笛が吹かれ、
ラッパが鳴り響くと、
彼は皆に大声で叫べと命じた。
すると城壁がくずれ落ちた。あの朝の事だ。
ジョシュアはジェリコで戦った。
すると城壁がくずれ落ちた。

V. Go Down, Moses

Go down, Moses
Way down in Egypt land.
Tell ol' Pharaoh
to let my people go.
When Israel was in Egypt land.
oppressed so hard,
they could not stand.
Thus spoke the Lord,
bold Moses said,
"Let my people go.
If not, I'll smite
your first born dead.
Let my people go."

行け モーゼよ

行け、モーゼよ
エジプトの地へ行け。
行って、老王ファラオに告げよ
わがイスラエルの民を解き去らせる様にと。
イスラエルの民が、エジプトに居た頃
それはきびしい虐待を受けていた。
そこで、神のお告げによって、
力強くモーゼが言った。
『わが民を解き去らせる様に。
さもなければ、
あなたの長男を殺すであろう。
さあ、わが民を解き行かせなさい。』

(訳詩:田中義信)

《贊助出演》西南学院グリークラブ

西南シャントウールの皆様、40周年記念演奏会のご開催おめでとうございます。皆様とは日頃より先輩、後輩の間柄として格別のおつきあいをさせて頂いており、良き兄貴としていい知れぬ親しみを感じております。また同じ音楽（合唱）を愛する合唱団として良き理解者であり、よきライバルでもあります。皆様の演奏に取り組まれる情熱、力強さ、そして音楽を心から愛されている姿を見るたびに、私どもは深い感銘を覚えずおられません。幸いにも今宵は、1ステージ合同で歌う機会を得ることが出来、世代を越えた大勢による大合唱で一体感を味わえるものと楽しみにしております。

今宵の演奏会のご成功と今後益々のご発展を部員一同心よりお祈りいたしております。



部員一同

ご案内

西南学院グリークラブ
第43回定期演奏会

1994.12.9(金)
福岡サンパレス

出 演 者

●1st Tenor

内田 圭一
佐藤 久晃
高原 勇治
諸熊 敏明
井上 康博
日下部一徳
前田 英彦
嘉屋 崇之

●2nd Tenor

甲木 秀章
田坂 久幸
福根 克博
山口 和也
岩村 裕治
浦田 正史
都志見 磨
三戸 隆史
堤 淳

●Baritone

麻生 一徹
飯尾 達哉
池上 和弘
杉田 俊雄
杉本 真也
中本 芳正
中山 健司
青井 康博
梅崎 亘生
桜井 和人

●Bass

須山 孝之
二井 利成
山崎 淳司
矢野 浩
渡辺 健
内村 浩三
大内田康徳
片桐 瞳夫
河合 正道
高田 浩光
宮本 秀樹

◆絵画材料(洋画用・日本画用・デザイン用)	◆額 ぶ ち
◆版画材料(木版用・石版用・銅版用)	◆彫 塑 材 料
又 山 本 文 房 堂	
●本店/福岡市中央区大名2丁目4-32 ☎092(751)4342	
●すみか店/福岡市中央区天神2丁目住友生命ビル地下 ☎092(721)0163	
●地下街店/福岡市中央区天神2丁目地下3号313 ☎092(771)2727	
●西新岩田屋店/福岡市早良区西新4丁目西新岩田屋3階 ☎092(822)0978	
●マークイン/中央区天神1丁目7-11イムズ7階 ☎092(733)2239	

西南シャントウール出演者



●1st Tenor

徳永麟之助	高木 正志	杉本 哲也
内海 洋一	出口 幸一	山口 聰
秋根 武	原田 久瑞	中竹 茂美
乙藤 成美	本山 和文	
宮地 基嗣	山元 一憲	

●2nd Tenor

的野 恒一	徳永 和彦	窪田 敏博
徳永 弘道	中尾 武史	波左間 実
野辺 和馬	佐藤 宗一	亀川 正則
馬頭 経明	福田 治	岩村 裕治
波多江 忠	石松 茂	(現役3年/OB担当)



●Baritone

林 照樹	和田 正義	首藤 純
持田 久	石川 和義	宮越 健雄
内海 敬三	森 博彦	池上 和弘
井形 宣英	松尾 淳郎	(現役4年/前OB担当)
下村 武俊	高川 弘幸	



●Bass

鶴原 太郎	鶴 喜廣	夏秋 毅昭
山本 昭輔	平田大三郎	中垣 登
下川 勝史	松枝 保匡	朔 正毅
木道 昇	鈴鹿 石根	
田中 義信	藤村 文彬	



	coffee • FUJIKAN • since 1960
●天神朝日会館1階店 ●天神ビブレB1店	
	COFFEE BLEND'S ブレンズ コーヒー
●天神西日本ビルB1店 ●博多駅ビル1階店 ●香椎セピア通り福銀横店 ●天神ショッパーズ8F店	

電話設備のジャンボタクシー(9人乗)
中型 小型 御用命は

平成自動車 株式会社

本社/福岡市中央区清川1丁目2-13 ☎531-4149
高宮/福岡市南区大楠3丁目27-28 ☎531-0765

■西南シャントゥール40年のあゆみ

(昭和29年) '54.4.10	●西南シャントゥール結成
6.6	●第9回 合唱祭
6.26	●西南学院グリークラブ 第3回定期演奏会 ☆賛助出演
10.17	●第9回 西部合唱コンクール福岡予選（1位）
11.3	●第9回 西部合唱コンクール（1位）



電気ホール
電気ホール
電気ホール
鹿児島市中央公民館

[11.3]
●初出場で優勝を果たし
会場前の喜びの記念
撮影。創立時の貴重な
写真。

11.23	●第7回 全日本合唱コンクール（3位）
(昭和30年) '55.11.3	●第10回 西部合唱コンクール（1位）
23	●第8回 全日本合唱コンクール（4位）
(昭和31年) '56.12.22	★Christmas Greeting with SEINAN CHANTEURS
(昭和32年) '57.5.24	★西南シャントゥール独立演奏会
(昭和33年) '58.12.18	★西南シャントゥール「クリスマスコンサート」
(昭和34年) '59.8.1	●西南学院グリークラブ〈創立40周年記念〉 第8回定期演奏会 ☆賛助出演
(昭和35年) '60.6.25	●西南学院グリークラブ 第9回定期演奏会 ☆賛助出演
(昭和38年) '63.8.3	●西南学院グリークラブ 第12回定期演奏会 ☆賛助出演
(昭和43年) '68.12.21	★西南シャントゥール「クリスマスコンサート」
(昭和44年) '69.12.20	★西南学院グリークラブ〈創立50周年記念〉特別演奏会
(昭和45年) '70.5.31	●第25回 合唱祭
10.21	★西南シャントゥール ファミリーコンサート
(昭和46年) '71.10.26	●西南学院グリークラブ 第20回定期演奏会 ☆賛助出演
(昭和47年) '72.11.9	●西南学院グリークラブ 第21回定期演奏会 ☆賛助出演
(昭和48年) '73.6.17	●第28回 合唱祭
'73.11.7	●舞鶴幼稚園〈創立60周年記念〉音楽会 「ひかりの子らの音楽会」 ☆賛助出演

小倉市立体育馆
小倉市立体育馆
名古屋市金山体育馆
西南学院ランキンチャペル
電気ホール
福岡市民会館小ホール
電気ホール
電気ホール
福岡市民会館小ホール
福岡市民会館大ホール
福岡市民会館大ホール
電気ホール
電気ホール

(昭和48年) '73.11.27	●西南学院グリークラブ 第22回定期演奏会 ☆賛助出演
(昭和49年) '74.6.16	●第29回 合唱祭
28	●コール・エスボワール女声合唱発表会 ☆賛助出演
11.8	★西南シャントゥール〈創立20周年記念〉演奏会



福岡市民会館大ホール
福岡県立勤労青少年文化センター
福岡市立少年文化会館ホール
福岡市立少年文化会館ホール

[11.8]
●市民会館の小ホールから少し大きな会場へ。
ボビュラーの「Wカルテット」等もあり楽しい記念演奏会となった。
(指揮は志渡沢亨氏)

(昭和50年) '75.6.15	●第30回 合唱祭
(昭和52年) '77.6.12	●第32回 合唱祭
(昭和53年) '78.7.16	●第33回 合唱祭
(昭和54年) '79.10.25	●コール・エスボワール女声合唱演奏会 ☆賛助出演
12.8	●西南学院グリークラブ〈創立60周年記念〉 第28回定期演奏会 ☆賛助出演
(昭和55年) '80.5.30	●福岡女学院〈創立95周年記念〉音楽会 ☆賛助出演
9.21	●第35回 合唱祭
12.25	●'80音協クリスマスコンサート THE MESSIAH
(昭和56年) '81.6.14	●第36回 合唱祭
12.12	●西南学院グリークラブ第30回記念定期演奏会 ☆賛助出演
	●'81音協クリスマスコンサート THE MESSIAH
	●コール・エスボワール10周年記念演奏会 ☆賛助出演
	●'82福岡女学院クリスマスコンサート THE MESSIAH
	●昭和58年早良区「成人の日記念行事」 はたちのつどい ☆ゲスト出演

電気ホール
電気ホール
電気ホール
福岡市立少年文化会館ホール
福岡郵便貯金ホール
福岡市民会館大ホール
福岡市立南市民センター
福岡郵便貯金ホール
福岡市立南市民センター
福岡郵便貯金ホール
福岡市立西市民センター

■西南シャントゥール40年のあゆみ

(昭和58年) '83. 6. 12 12.23	●第38回 合唱祭 ●<'83福岡女学院クリスマスコンサート> THE MESSIAH
(昭和59年) '84. 1. 15 6.10	●昭和59年早良区「成人の日記念行事」 はたちのつどい ☆ゲスト出演
9.26	●ルーテル教会 婦人大会 ☆ゲスト出演
10.12	★西南シャントゥール <創立30周年記念> 演奏会



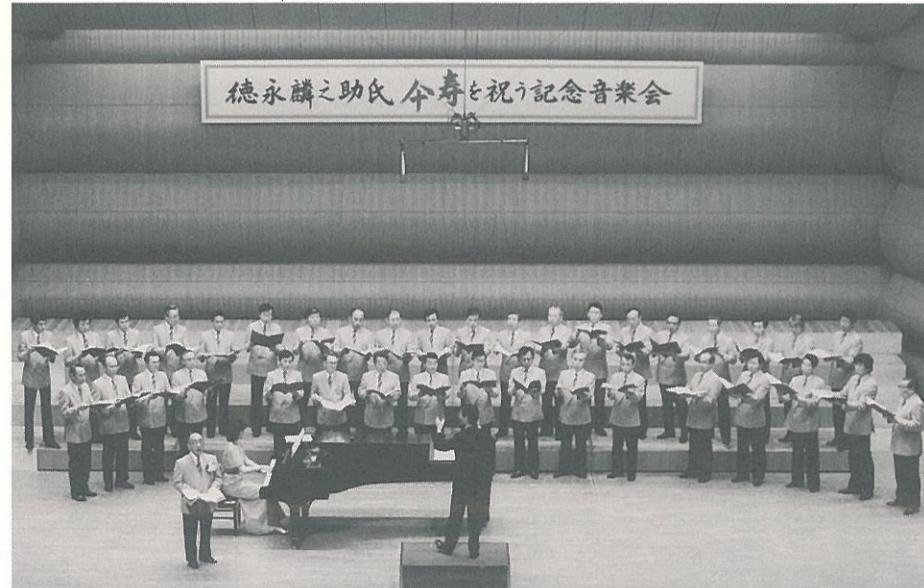
福岡市立南市民センター 福岡郵便貯金ホール
福岡市立西市民センター
福岡市立南市民センター 福岡婦人会館
福岡銀行本店大ホール

[10.12]
●念願の福岡銀行の大ホールでの記念演奏会。九州ホルンクラブの応援をえてシーベルトを歌う。

(昭和60年) '85. 6. 9 10.11	●<福岡県合唱連盟福岡支部40周年記念> 第40回 合唱祭 ★'85西南シャントゥール演奏会
12.25	●<福岡女学院創立100周年記念> クリスマスコンサート THE MESSIAH
(昭和61年) '86. 5. 10 10.25	●西南学院創立70周年記念音楽会 ●<日本福音ルーテル博多教会 宣教80周年記念> 「音楽の夕べ」 ☆ゲスト出演
11.15	●救世軍福岡小隊新会館献堂式 ☆ゲスト出演
12. 6	★西南シャントゥール'86 “Back Again” SINGING CHRISTMAS
13	●西南学院グリークラブ <第35回記念> 定期演奏会 ☆賛助出演
(昭和62年) '87.11.25 28	●福岡県宅地建物取引業協会例会 (協会歌披露宴) ☆ゲスト出演 ★'87西南シャントゥール演奏会

福岡市立南市民センター
福岡市立西市民センター
福岡サンパレス
福岡サンパレス
ルーテル博多教会
救世軍新会館
都久志会館
福岡郵便貯金ホール
オテルニューオータニ
福岡銀行本店大ホール

(昭和62年) '87.12.23	●<'87福岡女学院クリスマスコンサート> THE MESSIAH
(昭和63年) '88. 4. 15	★会長・徳永麟之助氏傘寿を祝う記念音楽会



福岡郵便貯金ホール
福岡郵便貯金ホール

[4.15]
●徳永会長の満80才をお祝いしての記念演奏会。五つの合唱団が競演した。写真はイタリヤ民謡を独唱する徳永会長。

12. 3 17	★西南シャントゥール「ポピュラーコンサート」 ●福岡西鉄名店街「X'masミニコンサート」 ☆ゲスト出演
23	●<'88福岡女学院クリスマスコンサート> THE MESSIAH
(平成元年) '89. 7. 15 8. 5	★'89 SUMMER JOINT PROMNADE CONCERT
12. 2 23	●「RKBコーラス仲間」TV録画 ★'89西南シャントゥール定期演奏会 ●西南学院グリークラブ <創立70周年記念> 第38回定期演奏会 ☆賛助出演
24	●南博教会クリスマスミサ・サービス ☆ゲスト出演
(平成2年) '90. 5. 26 7. 7	●'90別府レガート演奏会 ☆賛助出演 ★'90 JOINT CONCERT
8. 11	●「RKBコーラス仲間」TV録画
9. 2 11.23	●<琴城流大正琴> 将苑会発表会 ☆ゲスト出演 ★'90西南シャントゥール定期演奏会
12.14	●シェテルン福岡開設記念「ミニコンサート」 ☆ゲスト出演
15 19	●愛和病院「クリスマスコンサート」 ☆ゲスト出演 ●<南福岡ロータリークラブ例会> “ファミリークリスマス” ☆ゲスト出演

福岡銀行大ホール
福岡西鉄名店街
福岡サンパレス
ガスホール
RKB公開スタジオ
福岡銀行大ホール
福岡サンパレス
南博教会
九州エネルギー館ホール
(対馬)厳原町文化会館
RKB公開スタジオ
メルパルクホール福岡
メルパルクホール福岡
シユテルン福岡
(古賀町)愛和病院
全日空ホテル

■西南シャントゥール40年のあゆみ

(平成2年) '90.12.22	●<福岡女学院創立105周年記念クリスマスコンサート> THE MESSIAH	福岡サンパレス
(平成3年) '91.2.10	●<福永陽一郎氏追悼演奏会>『陽ちゃんといっしょ』 〔在京OB+西南シャントゥール有志〕	東京芸術劇場大ホール
6.14	●第3回エコー西高宮女声合唱団演奏会 ☆贊助出演	メルパルクホール福岡
	[6.12] ●エコー西高宮女声合唱団の演奏会に贊助出演。 混声で「フォスター曲集」を歌う。	
10.12	★'91 Joint in NAGASAKI ●<修猷館ヨット部>50周年記念祝賀会 ☆ゲスト出演	長崎市平和会館ホール 福岡ガーデンパレス
11.2	●<PaPio Opening Concert>『コーラスへのいざない』	PaPioビールーム
17	★'91西南シャントゥール定期演奏会	メルパルクホール福岡
24	●コール・リーベ女声合唱団10周年記念コンサート ☆贊助出演	(壱岐)勝本文化ホール
30	●西南学院グリークラブ<第40回記念>定期演奏会 ☆贊助出演	福岡サンパレス
12.7	●愛和病院「クリスマスコンサート」 ☆ゲスト出演	(古賀町) 愛和病院
14	●<'91福岡女学院クリスマスコンサート> THE MESSIAH	福岡サンパレス
25	●内海敬三氏 令嬢結婚式 ☆ゲスト出演	ホテルニューオータニ
(平成4年) '92.4.25	●「RKBコーラス仲間」TV録画	RKB公開スタジオ
5.16	●第47回合唱祭	福岡市立南市民センター

この店には くつろぎがある……
この部屋には いい音楽がある……
そして此処には何よりも美味しいコーヒーがある

コーヒーhaus
トソン

福岡市城南区別府1-4-1 (別府ロビル2階) ☎851-7091

(平成4年) '92.11.14	★'92西南シャントゥール定期演奏会	メルパルクホール福岡
		[11.14] ●'90年から。メルパルクホールが定演奏場となる。 写真は「映画とミュージカルのテーマ」のステージ。
12.15	●<福岡城西ロータリークラブ例会> ☆ゲスト出演	西鉄グランドホテル 福岡サンパレス
22	●<'92福岡女学院クリスマスコンサート> THE MESSIAH	
(平成5年) '93.1.23	●西南ブリエール演奏会 ☆贊助出演	福岡市立中央市民センター
2.21	●男声合唱団「コール・ばかんず」第5回定期演奏会 ☆贊助出演	下関市民会館大ホール
7.24	●コーロ・ステラ演奏会 ☆贊助出演	長崎市民会館
8	●<琴城流大正琴>将苑会発表会 ☆ゲスト出演	メルパルクホール福岡
11.13	★'93西南シャントゥール定期演奏会	メルパルクホール福岡
12.18	●西南学院大学フラウエンコール<20周年記念> 定期演奏会 ☆ゲスト出演	メルパルクホール福岡
22	●<'92福岡女学院クリスマスコンサート> THE MESSIAH	福岡サンパレス
25	●'93小野田市X'mas Concert ☆ゲスト出演	小野田市民館文化ホール
(平成6年) '94.11.11	★西南シャントゥール<創立40周年記念>演奏会 (★印/主催演奏会)	福岡サンパレス

40周年なので、表紙を描けとの事だった。
当然ながら頭には曲目のイメージが浮かんでくる。私の気持ではやはり「思ひ出」と「シューべルト」が大きな柱だな、と思った。
「思ひ出」の第三曲、〈立秋〉に出てくる懐月楼(かいげつろう)がまだ姿を残していると聞いて、それを描こうと柳川に出かけた。白秋時代の面影とは少し違う様だが、三階

■表紙のことば
記：田中義信

建ての構えは悪くない。この懐月楼に殿倉と水路を組み合わせて左側に描いた。
「シューべルト」の方もゆかりの建物を探した。彼が幼児期に洗礼を受け、7歳から楽器を学び、合唱団で歌を歌っていたというウイーンのリヒテンタール地区教会が好ましい形だったので、これを右側に描いた。
右下は、40周年の勲章。Foreverは、「まあまだ、歌いますバイ。」のココロである。

西南シャントゥールと私

西南シャントゥールの皆様、40周年記念演奏会おめでとうございます。私は北九州に在住する一主婦でございます。

毎年一回、七夕さまのようにシャントゥールにお目にかかるのが楽しみで、10月の声を聞くと心がそわそわしていち早くチケットを手にいれないと落ちつかないと云うぐらい、ファンになってしまっているのです。

そもそもシャントゥールとの出逢いは、徳永麟之助会長の傘寿を祝う記念音楽会が初めてでした。今からもう6年も前のことです。

私も未熟ながらお母さんコーラスの一員で十何年間歌っていますが、

いつも女性の声ばかりなので時には男性の声も聞きたくなり、大学の男声合唱を聴きに行くこともありますが、いまひとつものたりなさを感じてきました。そんな時お友達に誘われて徳永先生のお祝いのコンサートに出かけたのです。

そこでシャントゥールの歌を耳にした時の私の驚き、何かが胸に響いてきました。“これが本当の大人の声、これが本当の男声の歌なのだ”と、それもナント私の大好きなイタリア民謡でしたのでもうしひれてしまいました。それからというもの、お友達が行かれないときでも私は毎年一人北九州からはるばる胸をときめかせて足を運び、拝聴させていただいております。

ひとくちに40周年と申しますが、これまでに山や谷を幾度か越えられて今日のおめでたい日を迎えたことを拝察いたします。どうぞこれからも45周年、50周年へと素晴らしい歌声を響かせて私共を楽しませてくださいますように。私のようなファンも沢山、たくさん、いらっしゃることでしょうから…。

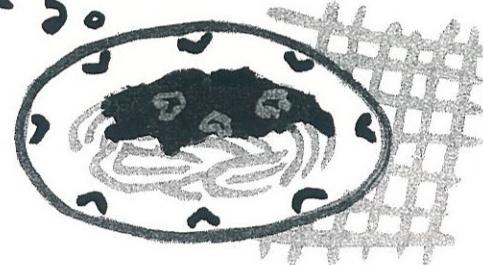
皆様のご活躍とご発展を北九州の空からお祈り致しております。

“西南シャントゥールの皆様に幸あれ”



北九州市若松区
橋本弘子

音楽のある家は、愛があふれてる。
入パゲティのあるテーブルは
笑顔に満ちてる。



APESTA
Bakery Restaurant

美しく見えることは楽しい。



■十年ほど前「企業の寿命」という本に“企業の寿命は三十年”とあった。我々は企業の寿命より十年伸びたわけだ。だがその間、危機的状況を幾度か経験した。その都度「止めるのはいつでもできる、灯は消すまい」という徳永会長の熱い情熱や、練習場を長期間提供された山本文房堂の的野先輩など、諸先輩の献身的努力で今日がある。現在の幸せを感謝せざるを得ない。■学生時代より親しんできた「タダ・タケ」節の多田武彦先生に今日のための組曲を作って頂いた。勿論本邦初演、夢みたいな事だ。また西南グリーが戦後再スタートした時手ほどきを受けた石丸寛先生の棒で歌えることは感激の一言につきる。両先生有難うございました。今後益々のご活躍お祈り申し上げます。■短期間でしたがボイス・トレーニングに快く貴重な時間をさいて下さった尾籠一夫・堺裕和両先生、心よりお礼申し上げます。■毎年熱心にご来場くださる多くの皆様有難うございました。来年も又ひとつ脱皮した姿をお見せすべく精進いたします。ご期待下さい。■現役グリー諸君、賛助出演有難う。■広告協賛を頂いた企業はじめ御協力頂きました関係各位の皆様、謹んで感謝とお礼申し上げます。

マネージャー／佐藤 宗一

「西南シャントゥール事務局」〒814-01 城南区長尾2-22-56 ☎(092)531-1315

●プログラム編集・制作：田中義信・中尾武史（広告）徳永武雄 ●撮影：的野恭一 ●印刷：福岡印刷株

■新天町店 ■渡辺通店 ■博多駅ビル店 ■西新店 ■香椎店 ■春日店 ■久留米リバーサイド店
■天神地下街店 ■川端通り店 ■野間店 ■ダイエー原店 ■長住店 ■ジャスコ東郷店 ■太宰府店

Q P S

キューピーズ宣言。

高品質 (Quality) なるほど価格 (Price) 高感度 (Sense)

時代が世の中を、お騒がせしています。
どんな今日になるのか、な、どんな明日がくるのか、な。
と、迷路にまよい、こんだ時代を、誰もが手さぐりしています。
でも、近ごろの世の中って、すこし賢くなつたみたいですね。
ちょっとムリしていたことや、背のびしていたことなんかに、はたと思いあたつたりしています。
自然体で暮らす心地よさを、「こんな時代」が教えてくれたかもしませんね。
だから大丸は、今こそ高らかにキューピーズを宣言。
Q·P·Sの3文字に、「品質のよいもの、センスのよいものを、
ご納得いただけるお値段でお届けします。」の心意気をこめました。
つまり、いいものは決して高くない、ということ。
ほんとはずっと前からキューピーズしてた大丸なのですが、
これからもこれまで以上に徹底したいと思います。
店内でQPSマークに逢つたら、どうぞ気軽にふれてみてください。

ずっと、グッと、グッドです。

誰よりも、(ミズ)です。



DAIMARU

大丸・福岡天神

電話 (092)712-8181 水曜定休
全館、毎日午後7時まで営業